日刊自動車新聞

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円＋税
電話 東京(03)5777−2351代表
©日刊自動車新聞社2017

9月20日
（水曜日）

交通遺児育英会

修学支援に加え交通安全意識醸成

交通遺児育英会（清水司会長、東京都千代田区）は、1969年5月に財団法人として設立された。以来、高校生への奨学金貸与を皮切りに、順次対象を拡大し、現在は大学、大学院、専修学校、各種学校までカバーしている。同会設立以来、高等学校以上の交通遺児約5万6千人に累計534億円を貸与した。

学生寮「心塾」

同会は、交通遺児の修学支援事業を活動の柱としているが、交通安全啓発活動も積極的に行っている。近年は、ACジャパンの支援で実施しているテレビCMが大きな反響を呼んでいる。

石橋健一専務理事は「平均的な交通遺児家庭にとって、子女の修学、とりわけ高校卒業後さらに上級学校へ進学させることは大変重い経済的負担になっている。国の奨学金では、有利子貸与型奨学金の利用者数が増加し、卒業後の返還負担が増大している現状が目立ち始めている。当会の奨学金は無利子貸与型だが、交通遺児家庭は一般家庭よりも一段と厳しい経済状態であるため、長期滞納は漸増している。給付型奨学金を希望する声は多いため、より一層の支援事業の充実が必要と感じている。一方、自治体や高校、自動車教習所などから、交通安全啓発への協力を求められるケースが増えており、当会としては、交通事故予防活動にも注力している」とする。以下、直近の活動を紹介する。

奨学生と保護者のつどい

奨学金返還免除措置も

交通遺児修学支援事業

2017年度以降、以下のように支援事業を本格化させている。

①奨学金返還免除措置

返還免除措置には新たに二つのケースを設けた。

一つは特別支援学校の卒業者等（17年3月卒業者より）が対象。特別支援学校高等部に在籍した者、または学校教育法施行令第22条の3（特別支援学校の対象とする障害の程度）に該当し他の高校に在籍した者に対して、貸与金の全額を返還免除している。

もう一つは、生活保護を受けている奨学生が対象。公的機関でその困窮度が認定されている生活保護者については、貸与金の一部返還免除を認めている。17年度以降、生活保護受給証明書を提出した人については、一律、その年度1年分の返還額相当額（貸与総額の20分の1の額）の返還を免除する。毎年度更新制なので、生活保護が止めば返還免除も停止する。

②修学支援金の給付範囲拡大

現在の家賃補助に加え、高校奨学生を対象とした上級学校（大学や専門学校等）進学受験費用補助制度を新たに設けた。この場合、1人当たりの給付上限は5万円。

③家賃補助の対象賃貸物件の範囲拡大

大学、大学院、専修学校等に進学する交通遺児のため、学生寮「心塾」を東京と関西エリアで運営しており、格安の寮費で学生を支援しているが、2015年10月より、同会の寮を利用できない地域の自宅外通学生に対して、毎月1万5千円の家賃補助を開始するなど、修学支援強化に取り組んできた。

17年度以降、この家賃補助施策をさらに強化した。従来は家賃補助の対象外であった学寮（大学や自治体、公益法人などが運営している学生寮）に入居している奨学生も家賃補助の対象に新たに加えた。

以上3点に加えて18年には、交通遺児向けに自動車免許取得費の一部給付制度を新設するべく準備を進めている。

これらの修学支援に注力する一方、奨学生の指導育成も重視している。奨学生の成績や生活状況を把握、指導するとともに、情報交換の場として1970年以降継続している定例イベント「高校奨学生と保護者のつどい」や、高校奨学生の海外語学研修事業を継続している。

企業や学校に講師派遣

交通安全啓発活動

警察庁主催の交通安全関連シンポジウムのパネリストとして同会の交通遺児・遺族を紹介しているほか、舞鶴市交通対策協議会の総会や旭川明成高校など同会奨学生や保護者を講師として派遣した。このような講師派遣は、同会のホームページでも受け付けており、依頼が増加している。

17年初めには、「父の思い出を乗り越えて交通遺児とその母親の思い」を発行した。毎年多くの交通遺児が生まれる中、交通遺児やその母親の苦労や頑張りを主に自動車関連業界に発信することで、交通安全への取り組みの推進をより一層後押しするのが狙いだ。

この小冊子は、交通事故で父親を失った子ども達とその母親が、その思いを伝えようと、同会が毎年主催する「高校奨学生と保護者のつどい」や、企業・団体が主催する各種交通安全啓発講習会などで行ったスピーチをまとめたもの。発刊直後から全国の自動車教習所や企業などの大きな反響を呼び、当初発行した1万部では足りず、増刷した。

不慮の交通事故で母子家庭となったにもかかわらず、そのような家庭に育ったことでこそ得られた心の強さや、周囲の人々の支えの有難さ、夢を持つことの大切さなど、残された家族が必死に生きてきた姿が赤裸々に綴られている。

無料で配布しているほか、同会のホームページでも公開している。希望の方は、公益財団法人交通遺児育英会（☎03−3556−0771）まで。

今年初めに発行した小冊子

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

©日刊自動車新聞社　無断複製転載を禁じます。